第４回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和２年10月７日（水）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 ９団体・企業
【開催結果】

議案１ 第３回会議以降の情勢の変化について

【情勢の変化】

・ カラマツ原木の需要は少しずつ増えているが、トドマツは未だ非常に厳しい状況。
・ カラマツ製材工場は持てるだけの在庫を積んでいるので、原木在庫は変わらず多い。
・ トドマツ原木はかなり劣化しており、工場の歩留まりが低下している。
・ 合板や港が少し動き始めたことにより、原木の一時保管を取りやめる動きが一部で出てきている。
・ ９月２９日に国有林材供給調整検討委員会が開催され、国有林材の供給の必要性が確認された。
・ 製材は８月に比べると上向きの兆しがあるものの、梱包・パレットは、厳しい状況が継続中。
・ サンギは若干、回復傾向にあるとの声が聞こえ始めているが、全体的には大きく増えていない。
・ 住宅着工数はある程度の数字で推移しており、輸入材の在庫は徐々に減っている。
・ 製紙工場は８月から若干戻っているが、未だ１割以上の減産を行っている状況。

【今後の見通し】

（主な意見）

・ 丸太の受入制限の継続により、これから川上に影響が広がっていくことを懸念している。
・ 梱包・パレットの本格的な回復の傾向が見えてくるのは年明けになると見ている。
・ サンギの見通しは芳しくない
・ 今後の住宅着工数について、注視していくことが必要。
・ 輸入材の値上げの状況によっては、国内にも注文が回ってくることを期待している。
・ 合板向けのカラマツは、今後はそれなりの量が販売できると見ている。トドマツも、年明けくらいから動くのではないかと見ている。
・ 当面、安い輸入材が入って来て道内のマーケットを圧迫するようなことは考えづらい。

議案２ 今後の対応方向について

【「道産木材保管・利用拡大等対策事業費補助金（道補正予算事業）」に関する意見】

（原木保管等支援）

・ 製材工場も無理して原木を買っており、工場土場での一時保管に対しても支援すべき。

（道産建築材利用支援）

・ 効果的に需要を創出するためには、支援対象をなるべく広くすることが有効。
・ 引き続き、道産材の出口対策を継続することを検討していただきたい。

【今後の対応方向に関する意見】

（需要喚起対策）

・ 道産材を使う動きが進むような仕掛けを作る必要がある。
・ 大型公共物件への道産材の使用に積極的に取り組んでいく必要がある。

（原木流通）

・ 原木の生産が絞られることにより、需要が回復した時に原木が足りなくなることを懸念している。
・ 状況が好転した時に材が出せるよう、山の生産ポテンシャルを掴んでおく必要がある。
・ カラマツは原木の材長が多様なことから、見込み生産が難しい。タイムリーな造材が求められる。
・ 原木の価値を維持するため、時期を考えた中で素材の生産と工場の受入を行っていく必要がある。

（森林整備）

・ 造林から伐採まで山の整備が進むよう、森林整備予算の確保に努めていただきたい。

（その他）

・ 全体像をつかむためにも、影響が大きい合板工場の情報を含めて検討する必要がある。

【まとめ】

・ 出口対策に継続して取り組むことが必要。
・ 木材需要が回復した際に対応できるよう、原木を安定的に供給する体制が必要。
・ 安定的な森林整備の継続が必要